スマートシティ実現で増幅するエリアの引力（岡崎スマートコミュニティ推進協議会

■ 事業のセールスポイント

- センシングデータを利活用した公民連携スマートプランニングで「楽しい・快適・安全なウォーカブルシティ」を構築
- あらゆる世代、あらゆるシーンでスマート技術やデータ利活用の便利さを感じられる「人間中心のまち」を実現
- スマートシティ実現で魅力を可視化し、持続可能なまちの引力（誘客・民間投資・出店・居住意向）を増幅

■位置図

対象区域は市内中心部

■対象区域の概要

- ○ 乙川リバーフロントエリア
- ○ 面積157ha
- ○ 人口7,800人

■ 対象区域のビジョン

○古くから時代に合わせ柔軟に役割を変化させ、広域で中心的な役割を担ってきたまちの歴史に学び、現代ではスマート技術実装により楽しい・快適・安全なウォーカブルシティを構築

○ウォーカブルシティ構築と、スマートシティ実現によるまちの魅力の可視化で、誘客・民間投資・出店・居住を惹きつける“持続可能なまちの引力”を増幅させ、“一歩先の暮らし”を実現する中枢中核都市としての役割を担っていく。

■本事業全体の概要

スマートシティ実現で増幅するエリアの引力（岡崎スマートコミュニティ推進協議会

■ スマートシティの目標(KPI)

□ 住民や来街者の「安全・快適・楽しい」を構築
- ✓ エリア内事故・犯罪発生件数の減
- ✓ シェアリングモビリティ利用回数の増加
- ✓ 環境シミュレーション活用の再開発検討
- ✓ ウォーキングアプリ登録件数の増加
- ✓ 満空情報サイト閲覧回数の増加

□ エリアの引力「誘客・民間投資・出店・居住」を惹きつける
- ✓ 来街者の増加
- ✓ 〃 消費額の増加
- ✓ 民間再開発検討件数の増加
- ✓ 居住者の増加
- ✓ 遊休不動産活用件数の増加

□ 都市経営の原資確保（次頁ビジネスモデルに詳細記載）
- ✓ シェアリングモビリティの利用データ解析による再配置コストの縮減
- ✓ 人流データとエリアマーケティングソフトの連携を見据えた実験の増加
- ✓ 花火大会等イベント警備員コストの縮減（未来社会創造事業 探索加速型連携）

■ 運営体制

■ 導入技術

楽しい　快適　安全

R2モデル事業 “ウォーカブルなまちのデータを来街者・居住者と共有”

人流統合分析

人流カメラ、3DLi-DAR、スマホGPS、断面交通量、事件事故、交通規制等の各データをGIS上に重ね、未来社会創造事業と連携し、密対策や群衆事故防止対策を構築

交通 / 個人デバイス / お買得 / 密防止 / デジタルサイネージ / 河川水位

人流カメラを組み込んだデジタルサイネージを設置し、閲覧者属性（性・年代）に合わせた映像コンテンツを表示。商業エリアへの誘導、エリアの安全情報・交通情報・密回避の情報を発信する。

実装済み・一部実装済みの技術

- H29.10～稼働 アプリ活用サイクルシェア事業
- R2.3設立 エネマネ地域電力小売会社
- R2.4～稼働 ウォーキングアプリ
- R2.3構築 駐車場満空情報提供

R1.7～一部実装 通行人属性推定技術

顔認証技術で通行人の性年代を推定・データ蓄積。R1年度6台常設、R2年度12台設置予定。民間投資・出店の誘導や、感染症対策効果の測定

R1.8～一部実装 人流動線把握技術

三次元赤外線センサーで通行人数・密度・経路を把握。群衆誘導や密回避に活用

実装予定の技術

水位予測技術

スマートメーター通信網で取得する雨量と水位のデータから予測アルゴリズムを構築。予報情報で水位を予測。データ提供は予測データとリアルタイムデータの両方を行う。

都市環境予測技術

熱流体シミュレーションによる環境予測技術を活用。街区、通りの気流・温度・湿度・暑さ指数等からまちの環境を分析し、再開発や住民・来街者への情報提供に活用。

ウォーカブル補完モビリティ

電動マイクロモビリティのシェアリングやデマンドバス運行、特にシニアカーシェアリングでは安全ナビゲーションと運行の見守りを行う。

異常行動検知技術

カメラ画像の骨格抽出による異常行動解析を行い、トラブル発生時にはアラートを出すなどの防犯対策を行う。

スマートシティ実現で増幅するエリアの引力（岡崎スマートコミュニティ推進協議会

■ビジネスモデル

スマートシティの実現により、居住者・来街者の便利な暮らしだけでなく、**都市経営の原資確保**にむけたビジネスモデルを構築

□ ｺｽﾄの縮減①（サイクルシェア）

現在、運用中のｻｲｸﾙｼｪｱ事業では、自転車の配置を調整する“再配置”ｺｽﾄが事業全体の約5割を占める。運営事業者とのﾃﾞｰﾀ共有・分析により、合理的な再配置を行いｺｽﾄ縮減と売上増加を図りさらなる都市経営の原資に振り替える。

□ ｺｽﾄの縮減②（ｲﾍﾞﾝﾄ警備：科学技術振興機構　未来社会創造事業）

全国的に花火大会をはじめとするｲﾍﾞﾝﾄは、警備員不足で中止に追い込まれているものもある。
最小限の警備員配置で最大限の安全を確保するとともに、既存の警備ｺｽﾄを縮減し、さらなる都市経営の原資に振り替える。

（Withｺﾛﾅでは密回避を前提とするｲﾍﾞﾝﾄ開催手法の確立にも寄与）

□ データ有償提供（人流ﾃﾞｰﾀとｴﾘｱﾏｰｹｴﾃｨﾝｸﾞｿﾌﾄの連携）

出店・投資事業者は、市販のｴﾘｱﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞｿﾌﾄを購入し、事前の各調査を行っている。ｿﾌﾄ販売会社と連携して岡崎市人流ﾃﾞｰﾀの有償提供にむけた検討を行う。また、出店後もｷｬﾝﾍﾟｰﾝ戦略等への活用可能性を検討する。

■スケジュール

技術の導入・実装

	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
ｱﾌﾟﾘ活用 ｻｲｸﾙｼｪｱ	実装						
ｴﾈﾏﾈ地域電力小売会社	設立	実装					
ｳｫｰｷﾝｸﾞｱﾌﾟﾘ	開発	実装					
駐車場満空情報	開発	実装					
通行人属性推定	一部実装	実装拡大	全体実装				
	屋外実証						
人流動線把握（3D-LiDAR）	一部実装	実装					
水位予測	外水開発	内水開発・実証		実装			
都市環境予測		実証	実装				
ｳｫｰｶﾌﾞﾙ補完ﾓﾋﾞﾘﾃｨ		開発・実証		実装			
異常行動検知		開発・実証		実装			
人流統合分析		開発	実装				

社会の変化・ビジョンの実現

	2020～2025	2025～2030	2030～
公共投資	公共投資の効果測定		
	データに基づく効果最大化策の実施		
民間投資	民間再開発におけるデータ活用100%		
		スマート性能を備えた民間再開発	
民間商業	出店検討事業者によるデータ活用		
	出店後の営業分析データ活用		
誘客	来街者のスマートシティ利便性実感（アンケート）		
		来街者の増加	
居住	現居住者のスマートシティ利便性実感（アンケート）		
		新規居住者の増加	

スマートシティ実現で増幅するエリアの引力（岡崎スマートコミュニティ推進協議会

R1.12議決　岡崎市総合計画基本構想（総合政策指針）抜粋

“一歩先の暮らしで三河を拓く 中枢・中核都市おかざき”

行政・学研機能やさらなる商業機能の集積、**新技術のまちづくりへの活用**を通じて、利便性や先進性の高い暮らしが実現できる都市

・・・暮らしを楽しむまちとして市民や民間事業者に選ばれる都市

・・・新技術の普及により生活利便性が著しく向上した社会にあっても、まちを楽しむ人が集う将来を見据えて

利便性の
高い暮らし

まちを楽しむ
人が集う将来

Physical Data

Insight Data

人流や地価などのﾌｨｼﾞｶﾙﾃﾞｰﾀのみならず、意識調査やSNS分析等で
明らかとなるｲﾝｻｲﾄﾃﾞｰﾀを組み合わせ、社会資源として共有

可視化されたまちの引力が「スマートなこのまちで〇〇したい」を増幅